

トロントで小児医療を学ぶ in Toronto (Canada)

2017/2/19 - 2017/2/26
健康科学コース4年 横田 幸恵

渡航先での活動内容

• The Hospital for Sick Children (SickKids)



SickKidsは世界でも有数の小児病院である。今回の研修では病棟及び研究室を見学させていただいた。病院らしからぬ明るく開放的で色彩に富んだ内装や、病棟と研究室のエリアには明確な境界がなく臨床医と研究医が同じ場所で、活発に議論を交わしているのが印象的であった。カナダでは必要であると判断された医療は基本的に全て健康保険で賄われる。一人ひとりに非常に手厚い医療が提供されている印象を受けた。この医療を必要であれば誰でも受けられるというのは素晴らしいことだと感じた。

• The Centre for Addiction and Mental Health (CAMH)



カナダ最大の精神保健・薬物依存の教育医療機関であるCAMH Queen Street Siteを視察した。薬物依存と精神疾患や精神保健上の問題は切り離せないものであり、CAMHにおいては薬物依存と精神保健上の問題は別々にはではなく統合的に対処されていた。

• Hsuen Medicine Professional Corporation



North Yorkの住宅街に位置する診療所。Dr. John Hsuenは小児科専門医であるが、看護師である奥様と共に夫婦で英語・中国語・日本語での診療を行っており、小児のみでなく特に家庭医を見つけにくい外国出身患者の家庭医としても診療を行っている。Dr. Hsuenの診療を1日見学させていただき、カナダでの医療のあり方や予防接種行政についてもお話を伺った。診療の傍観には皆さん笑顔で同意してくださり、Hsuen先生が患者さんから深く信頼されていることが感じられた。

• Ronald McDonald House Charities (RMHC) Toronto



入院中の小児やその家族の滞在施設であるRMHCは世界各地に存在するが、Toronto Houseは81家族を収容できる大規模な施設で、療養中の子どもや兄弟が補習を受けることのできる教室や体育館、映画館、さらに子どもが人体や自分の病気について学ぶことのできる部屋や、各家族の居室のドア横には絵や文章で自分を自由に表現できる黒板など、子どもたちや家族が自分の病気を知り、次第に受け入れるための様々な工夫が見られた。

目的を達成できたか

今回の研修では、日本における小児科のかかりつけ医にあたるHsuen Medicine Professional Corporationと、世界的にも有名な小児総合病院であるSickKidsという、全く異なる2か所の病院を視察することができた。また、RMHC Torontoでは入院中の子どもや家族の生活へのサポートを学んだ。研修全体として、小児医療を様々な視点から学ぶことができたと考えている。

グローバルな視点とは何か

今回数ヶ所の施設を見学させていただいたが、いずれの施設においても日本との考え方の違いなどを感じることがあった。日本の医療制度にもカナダの医療制度にもそれぞれの長所・短所があるが、幅広い知識・エビデンスに基づいて自国制度を客観的に俯瞰することが重要だと感じた。

将来の進路決定へどう影響したか

SickKidsでは想像していた以上に日本人の方が多くいらっしゃったが、海外からはclinical fellowとして臨床と研究の両方に従事されている方が多いのに対して、日本人の先生はほとんどの方がresearch fellowとして勤められているようであった。USMLEなど、日本人が海外で臨床医となるには大きな壁となっているようであるが、今回実際に医療の現場を見させていただいて、海外で臨床医としても働きたいという思いが強まり、医学や英語を学ぶモチベーションが高まった。

目的以外に学んだ点、反省点

Hsuen Medicine Professional Corporationの見学は自分自身でアポイントメントをとったが、日本国大使館のホームページなどの情報を参照して日本から電話をかけるという日常ではなかなかできない経験ができたと思う。反省点として、病院では日本人の医師や看護師の方を中心にご対応いただいたが、英語の病名や症状など、患者さんとの会話や研究でのディスカッションを傍聴していついていけないことが多々あった。小児の疾患についてもう少し知識があれば、より有意義な研修となったと思う。

後輩へのアドバイス

短期間ではありますが、海外で学ぶ可能性を広げてくれる素晴らしい制度です。計画が難しい、時期的に間に合わないと思っても諦めずに一度先生方に相談してみてください。

研修支援制度に望むこと

- 本海外研修の趣旨などについて、英語版の公式な説明文書を用意していただけると、アポイントメントをとる際、あるいは研修先で本制度の説明がスムーズに行えると思います。
- 今後も海外研修支援制度を継続していただければ幸いです。